

一般検査

一般検査では、主に尿の検査をしています。その他に便、髄液などの検査もおこなっています。



尿検査

尿検査では身体の健康状態を大まかに判断することができます。正常な尿では、蛋白や糖はほとんどみられません。

1.尿定性の検査

尿試験紙を用いて、下記の項目を化学的に検査します。

項目	正常値	結果の考え方
たんぱく	(-)	腎臓の病気や尿路の病気の可能性もあります。また、発熱している時にも異常値が出ます。
糖	(-)	糖尿病など。ただし、糖検査だけでは糖尿病と診断できないので、他の検査も必要となります。
ウロビリノーゲン	(±)	主に肝臓の機能を反映しています。
潜血反応	(-)	膀胱炎・腎臓・尿管の結石など。
ビリルビン	(-)	肝炎・肝硬変など肝臓の病気か、胆石症などが考えられます。
ケトン体	(-)	糖尿病や下痢・嘔吐など胃腸の消化吸収のトラブルや熱がある時も異常値が出ます。
白血球反応	(-)	白血球は膀胱炎・尿道炎などの細菌感染症や尿路結石などの炎症で増加します。

2. 尿沈渣の検査



尿沈渣は、尿中の細胞およびその他の成分を顕微鏡で観察する検査です。

腎臓や膀胱、尿路などの状態により成分に変化がみられます。

尿中の主な成分は、赤血球、白血球、上皮細胞、円柱、細菌などです。

便検査

1 . 便潜血

便のなかに血液が混ざっていないかどうかを調べる検査です。

大腸ガン・胃潰瘍や潰瘍性大腸炎などの消化管出血で陽性にでます。

2 . 虫卵検査

回虫・ぎょう虫などの寄生虫卵の有無を調べます。

髄液検査

髄液とは脳脊髄を保護している液のことです。

中枢神経系の疾患について、診断ならびに経過観察のために髄液検査が行われます。

穿刺液（胸水・腹水・関節液）

性質を調べることで、病気の診断補助や治療経過を知ることができます。